

聖書:ダニエル記2章1～23節

説教:天の神にあわれみを乞う

はじめに

イスラエルは、ダビデの手によって一つの国にまとめられ、続いてソロモンの手によって歴史上もつとも繁栄した時代を迎えました。ところがソロモンが亡くなると、北王国ユダと南王国イスラエルに分裂してしまい、歴代の王さまは異教の神々を拜んで主に逆らい続け、あるときまづは北王国が当時国力を拡大していたアッシリアの手によって滅ぼされ、それからおよそ八十数年経って今度は南王国がバビロンの手によって包囲されてしまい、国の主だった人たちもバビロンに連れ去られてしまいます。そのなかに当時まだ少年であったダニエルと彼の仲間であった、ハナンヤ、ミシャエル、アザルヤもいました。彼らはユダヤ人としての自分の名前を奪われ、王さま直属の専門学校に入れられて敵国バビロンの言語、文学、歴史を学び、やがて王に仕えることとなります。

今日の箇所には、バビロンの王であるネブカドネツアルが夢を見たことがきっかけとなって大騒動が持ち上がり、巡り巡ってそのとき王に仕えていたダニエルが殺されそうになっていくことが書かれています。そこにどのような神のみこころがあったのかをともに見てまいります。

1 異教の王に働く神

1) 王の見た夢

1節を読みます。「ネブカドネツアルの治世の第二年に、ネブカドネツアルは何度か夢を見た。そしてそのために心が騒ぎ、彼は眠れなかった。」

ネブカドネツアル王は、自分が見た夢が何か大きな意味を持っていることには気がつくのですが、それがどんな意味なのかは自分ではわかりません。そこで国中から、今ふうな言い方をすれば学者とか超一流の研究者たちと呼んで解き明かしてもらうことにした。ところが、学者たちは困ってしまう。王さまが、「夢の意味を告げることができなければ、おまえたちは手足をばらばらにするぞ」と脅迫しても、カルデア人たちは11節でこのように言うしかなかった。「王がお求めになっていることは、難しいことです。肉なる者と住まいをともにされない神々以外に、それを王の前に示すことができる者はおりません。」

王はこれを聞いて怒り狂い、全員死刑だと叫びます。

2) 智恵と思慮深さをもって

この騒ぎは、この話に関係がなかったダニエルたちにも飛び火して、ダニエルと他の三人の間も、突然に死刑宣告されてしまいます。普通なら頭が真っ白になってしまい、冷静になれと言われてもとてもできそうもありません。

ところがダニエルはちがう。14節。「そのとき、ダニエルは、バビロンの知者たちを殺すためにやって来た王の親衛隊長アルヨクに、知恵と思慮深さをもって対応した。」

驚きです。なぜこんなことができるのかと考えます。何もないときはその人の内側にあるものはほとんど見えなくても、いざ何か起きるとその人の心の奥底に隠れていたものが明らかになることがあります。私のことを言えば、牧師だからさぞかしすばらしい信仰を持っているのかと知っているかもしれないませんが、そんなことは当てにならない。飛行機に乗ると私の信仰がすぐばれます。気流の関係で飛行機が揺れても妻は平気なんだそうです。ところが私のほうは、からだをこわばらせて手は飛行機が揺れたくらいでこうなるのですから、私の信仰はこんなものです。しかしダニエルは、あなたは死刑だと言われても冷静であった。

3) 神から与えられた賜物

なぜそうできたのだろうかと考えます。ダニエルの信仰がすばらしいから。でもそれだけでは答えになっていない。本当の答えは1章17節にあります。「神はこの四人の少年に、知識と、あらゆる文学を理解する力と、知恵を授けられた。ダニエルは、すべての幻と夢を解くことができた。」

ダニエルが落ち着いてこの事態に対処できたのは、神がダニエルに与えてくださった賜物によるものであったと考えるべきでしょう。そのことはダニエルも21節で告白しています。

それを聞いて、「私もダニエルのような賜物がほしい」と、思うでしょうか。でもそれはよく考えた方がよい。第一コリント10章13節に有名なみことばがあります。「あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えていてくださいます。」

このことばを言い換えるとうなるでしょう。ダニエルが厳しい試練に巻き込まれたのは、もともと彼にはそれに耐えられるだけの賜物が与えられていたから。だから脱出できる。そうしますと、「私に賜物をください」と祈る方がときどきありますが、よくよく考えた方がよいということになります。

いずれにしても、ネブカドネツアル王が不思議な夢を見ることになったのは神のご計画であったことは明かです。その結果、ダニエルがこの騒動に巻き込まれてしまう。どうしてこうなるのか。これには必ず意味があるはずで。それはどのようなことなのか。次に見てまいります。

2 ダニエルを通して働く神

1) 祈り

ダニエルは王の所に行って、時間の猶予をくださるようお願い出ます。そして他の三人の仲間にも自分のために祈って欲しいと依頼し、そうしてから自分の家に帰ります。そこで何をしたか。18節。「それは、ダニエルとその同僚たちがほかのバビロンの知者たちと一緒に滅ぼされることがないように、この秘密について天の神にあわれみを乞うためであった。」

ここだけからは、ダニエルが自分と三人の同僚たちだけが助かるように祈ったともとれます。しかしそうではない。この後ダニエルはアルヨクに24節でこう語っていることに注目します。「バビロンの知者たちを滅ぼしてはなりません。」自分たちだけが助かろうとしたのではなく、信仰者ではないバビロンの知者たちもこのような理不尽な理由で滅ぼされてはならない。そのために、ダニエルは天の神にあわれみを乞うために祈っていたのでした。

2) 秘密が明らかにされる

その結果は19節にあります。「そのとき、夜の幻のうちにこの秘密がダニエルに明らかにされた。ダニエルは天の神をほめたたえた。」王が見た夢がどのようなものであったのかについては、この2章の後半でダニエルが王に解き明かしてまいります。このように神が祈りに答えてくださったことを知ったダニエルは22節で神をほめたたえながらこう語ります。「神は、深遠なこと、隠されていることを明らかにし、闇の中に何があるかを知り、ご自分の内に光を宿される。」

神がネブカドネツアル王の心の闇に光を当てて、隠されていることを明らかにされたこと、ダニエルが

告白していることに注目します。このことばと先ほどのカルデア人の11節後半のことばとを比べてください。「肉なる者と住まいをとものにされない神々以外に、それを王の前に示すことができる者はおりません。」カルデア人は、神の他には王の心を解き明かすことのできる方はいないと証言していた。これとダニエルの告白から、何がわかったか。誰が神であるのかが、これでわかった。ダニエルを通して王の心を解き明かしてくださった方、その方こそ本当の神であることが明らかにされる。しかし、この時点ではこれを知ったのはダニエルだけであったことに注意します。このことはその後どうなったのでしょうか。

3 信仰者を通して働く神

1) なぜ苦しみを通らされるのか

さきほど、なぜダニエルがこの騒ぎに巻き込まれるのか、という疑問を取り上げました。信仰者であったダニエルが、ユダ王国の罪に巻き込まれてバビロンに補囚として連れて行かれ、まったく望まない人生を歩まなければならなくなる。今日の箇所でも自分はまったく関係ないのに、突然あなたは死刑ですと言われてしまう。普通なら、「自分はいった何をしたのですか。」文句を言いたくなるような扱いです。ダニエルにはこのような試練に耐えられる賜物が神から与えられていた、と先ほど言いました。この説明は、「どのようにして試練をぐり抜けたのか」という質問の答えにはなりません。けれども、「なぜダニエルが巻き込まれるのか」という質問の答えにはなりません。私たちが知りたいのは、「なぜ」ということことです。というのは、だれでも苦しみに会うとき、この苦しみに私にとってどんな意味があるのか知りたい、そのような願いがあるからです。

2) すべての人を救うために

その答えを知るためには、ダニエルが苦しみ通されることによって、何が起きたかをみればよろしい。詳しくは次回見ますが、二つある。まず一つ目、ダニエルの祈りにあったようにカルデア人が助かります。そして二つ目。王はダニエルの夢の解き明かしを聞いて、47節で「あなたがたの神こそ、神々の中の神、王たちの主、また秘密を明らかにする方であるに違いない。」こう証ししていく。最初、真の神はどなたなのかはダニエルしか知らされていなかったのです、それがやがてバビロンという異教の神々を信じる国の王や知者たちが主を知っていく。そのためにダニエルが用いられて

いる。そのような流れになっています。なぜそのようなことをするのしょう。ひとつしかない。神はご自身を示しながら、すべての人を救いたいのです。だからこのようなことが起きていく。

3) 信仰者が苦しみのなかに置かれるとき

いま世界中の人々が同じ苦しみに直面しています。信仰者だから苦しみに会わないのではなく、信仰者であろうがなかろうが同じ苦しみを味わいます。ダニエルもバビロンの知者たちと同じ苦しみを味わいました。その時彼は、バビロンの知者たちが滅びないようにと祈ったことを忘れてはなりません。私たちもそう祈ります。人々が滅びないように。人々がこのことを通して真の神がどなたであるのかを知るように。

人々は人間の知恵によって問題を解決しようとしています。もちろんそれも大切です。でも本当に解決できるのでしょうか。本当に恐ろしいのは何か、ある人たちは気がつき始めています。最初はウィルスだと思っていた。ところが本当に恐ろしいのは人の心ではないのかと思わされる話が出てきています。感染していることが発表されると、本人だけではなく家族や学校、会社やお店に対して徹底的に嫌がらせをしたり、脅迫する。ときには人殺し扱いされる場合もあると聞きます。人間の心の闇の中にあるものが吹き出ています。この闇こそ罪というものでしょう。ワクチンで治せません。ダニエルは自分の罪ではない、ほかの人の罪によって試練に巻き込まれていきました。その姿はイエス・キリストにつながります。人の罪によって理不尽な苦しみを引き受け、十字架でいのちをお捨てになったイエス・キリスト。それはすべて私たちの闇の中にある罪に光を当て、その罪を赦すためにされたことでした。そのようにしてくださる真の神がだれであるかが明らかにされるために、今私たちは置かれているのかも知れません。ひとり一人の賜物はそのために用いられていきます。